

令和２年度第４回「沖縄の産業振興のあり方検討会」議事要旨

○日 時：令和３年３月１８日（木）１５：００～１７：００

○場 所：那覇第２地方合同庁舎１号館Ａ／Ｂ会議室

参加委員

西田委員長、金城委員、古波津委員、原委員、下地委員、高橋委員、大嶺委員（代理：佐久本委員）、伊達委員、杉委員（代理：崎浜委員）、坂野委員

議題

１．本調査における分析・検討結果のとりまとめについて

議事概要

本調査における分析・検討結果のとりまとめについて説明を行った。

その後、各委員からあった意見は、以下のとおり。

○今後需要拡大が見込まれる半導体関連等の製造業においては、グローバルなサプライチェーンに沖縄をしっかりと組み込んでいくことが重要。地理的に沖縄はその可能性を有しているという意見があった。

○情報セキュリティの監視業務の分野は、沖縄が集積地となる可能性を有しているという意見があった。

○観光推進との両輪で感染症対策は最重要で、沖縄だからこそ感染症対策を重要事項と位置づけるべき。治療、予防に加え、診断などの分野でもベンチャー企業が増えており、感染症にかかる素地があるが、さらなる誘致・集積に向けてはインキュベート施設等が不足している状況であるという意見があった。

○沖縄の観光産業は厳しい状況だが、アジア経済を考えると今後も注力すべき産業である。観光産業は総合産業であり、他産業とどう連携するかが重要。スポーツヘルスケア産業や製造業などを絡めることで、観光業の量から質の転換ができていくという意見があった。

○ICT、AI 分野、バイオ分野など、今後伸びることが想定される分野においては、十分に基礎を固めなければいけないという意見があった。

以上